

7月30日

学芸講座「古川祭の起し太鼓と屋台行事」に寄せられたご質問に

講師・本永義博先生がお答えしますQ&A

(飛騨市教育委員会 文化財研究員)

Q 付け太鼓が大太鼓（起し太鼓）に近づいてせり合う事は神事としてどのような意味か知りたい

- A**
- このことは「付ける」と表現されますが、「付ける」ことについてはおよそ3種類の解釈があるようです。大太鼓が乗る櫓の上に付け太鼓を「乗せる」、櫓に付け太鼓を「くっつける」、櫓に付け太鼓を「近付ける」です。最近は「くっつける」こととの考えが主流のようです。
 - 「付ける」のは櫓の後ろからで、櫓の前や横から「付ける」ことは禁止されています。
 - どの台組より先に「付ける」ことが名誉とされています。そのため、それぞれの付け太鼓が先陣を争うので激しいもみ合いになります。

Q 古川祭の目的は護国[マ]豊穰でしょうね

- A**
- 現在の「気多若宮神社規則」等に祭の目的は明記されていませんが、春祭である（明治中期までは秋祭）ことから五穀豊穰を祈るという目的もあると考えられます。
 - なお、明治11年の「気多若宮神社祭礼規則書」には、（例祭は）神様を敬うことを主目的とし、人民の平穩に感謝して幸せを祈る大典であると書かれています。